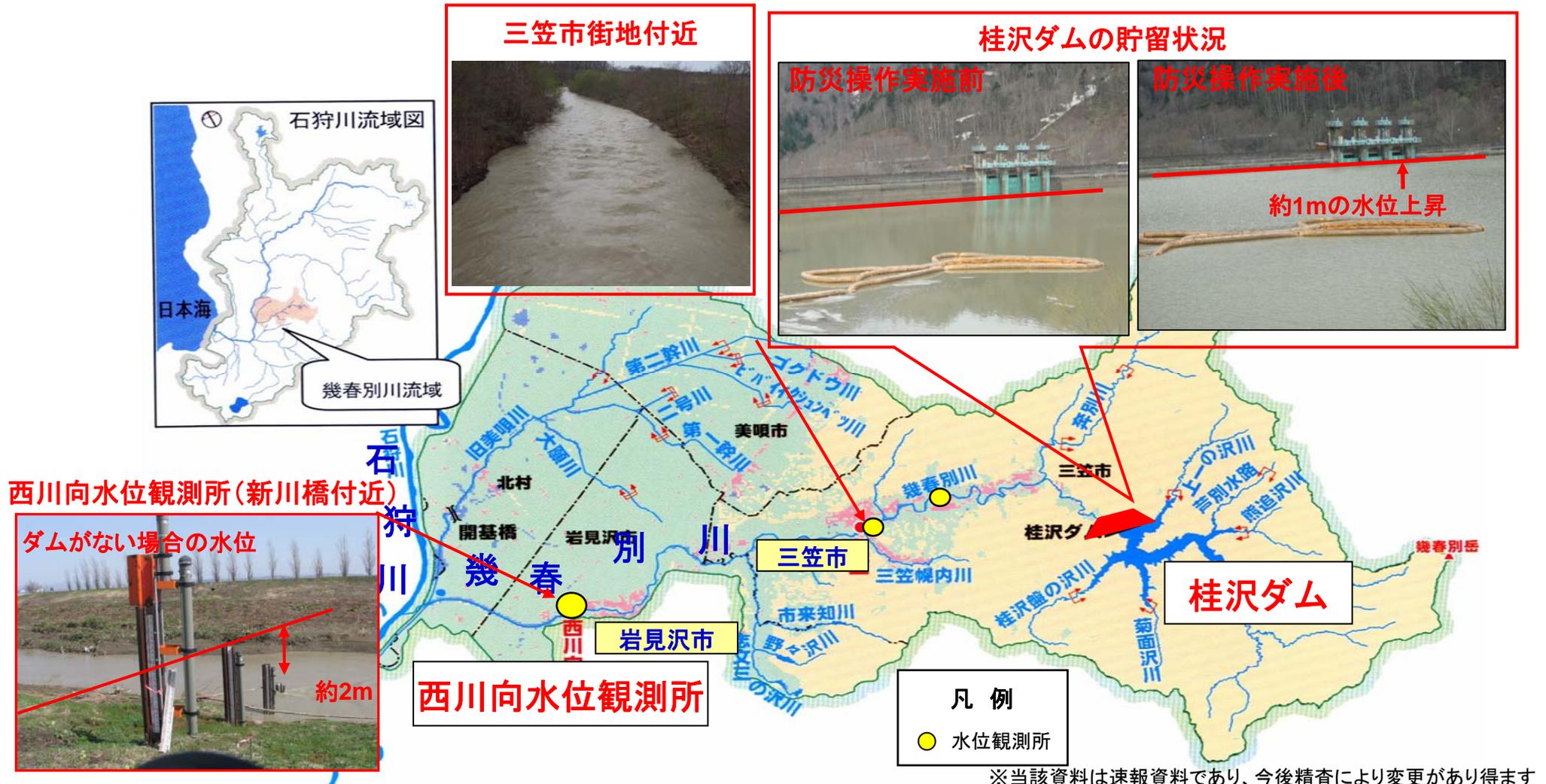


桂沢ダムの防災操作効果について

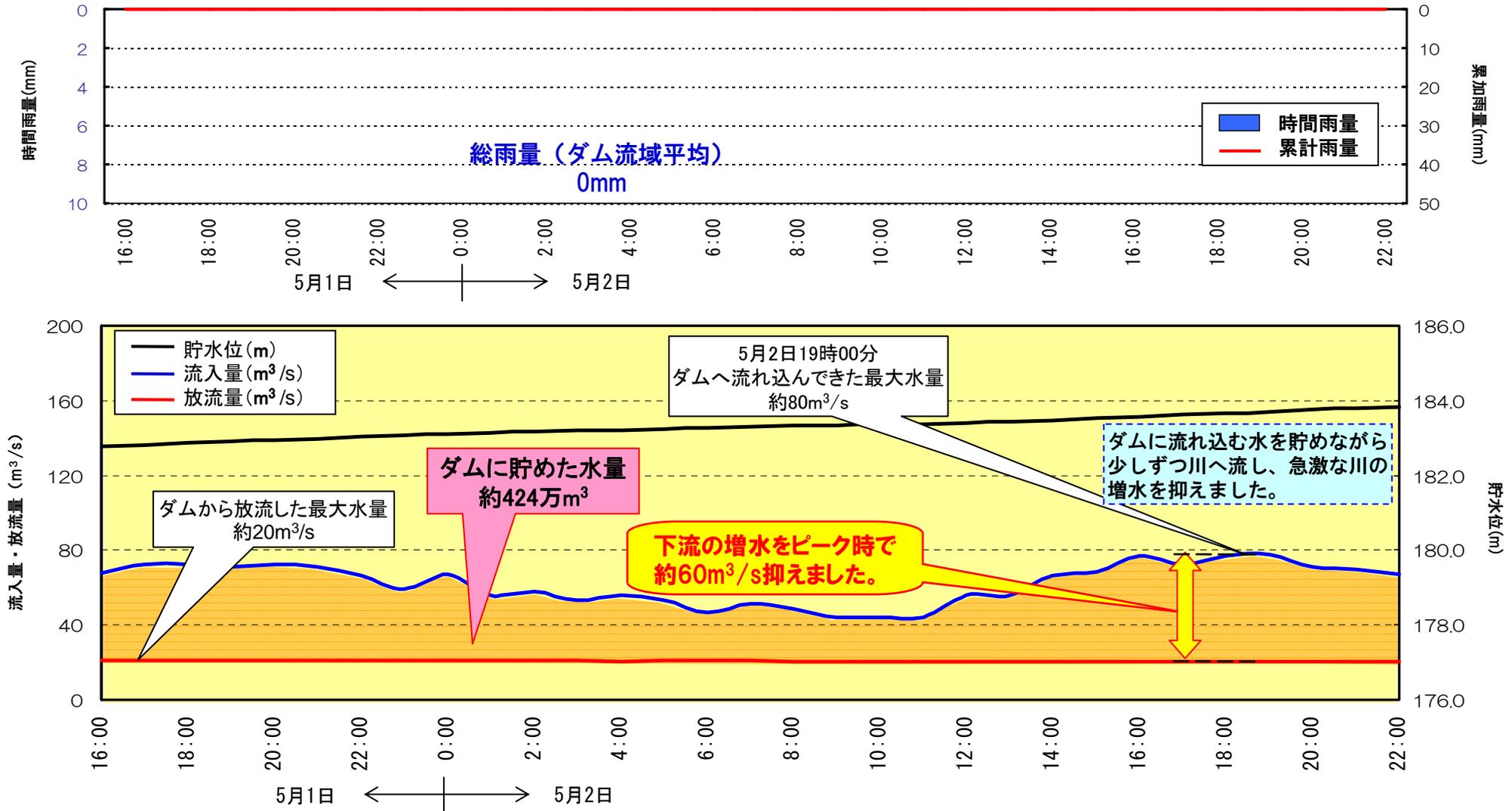
平成24年5月1日より融雪の影響により、幾春別川上流にある桂沢ダムでは、**河川の水位を低減させる防災操作を実施しました。**

ダムに流れ込んでくる水を一部貯め込み、下流に放流する水を少なくすることで、幾春別川新川橋付近(西川向水位観測所)の水位を**概ね2m程度低減**させたと想定されます。



桂沢ダムの防災操作状況

今回の出水において、桂沢ダムでは、最大で毎秒約80m³の流入がありました。
それに対し下流への放流を最大でも毎秒20m³程度に抑えことで、差分をダムに貯め込み、
約424万m³（札幌ドーム約3個分）の洪水をダムに貯め、下流河川の水位低下を図ることが出来ました。



※当該資料は速報資料であり、今後精査により変更があり得ます

桂沢ダムによる水位低減効果（西川向水位観測所地点）

桂沢ダムの防災操作により、幾春別川の新川橋付近（西川向水位観測所）の水位を**概ね2m程度低減**させたと想定されます。

◆西川向水位観測所地点（ダム下流約33km）

